



2008年12月24日発行

■編集・発行

北海道火山防災サミット実行委員会2008十勝岳地方実行委員会

■事務局

NPO法人環境防災総合政策研究機構

〒060-0001

札幌市中央区北1条西8丁目2-39

日宝大通ビル8F

Tel. (011) 271-2663



観光と防災のまちづくり



十勝岳周辺地域は雄大な火山丘陵景観と温泉に恵まれ、豊富な農産品を生かした観光地として有名です。また、大正泥流以降、十勝岳噴火の経験を経て、今は「観光・防災まちづくり」の先進事例として知られています。

白金地区の減災と観光に配慮した施策は、1988-89噴火を機に進められ、「安全まちづくり」の全国モデルにもなりました。

1988-89噴火当時、深夜の避難勧告や融雪型泥流の危険性による避難解除の遅延など数々の悩みを抱えながら、地域では、何を思い、どのように決断・対応したのか・・・？

このワークショップでは、観光事業者や地元行政、地域住民に、過去の事例から未来まちづくりに継承すべき教訓を語っていただきました。

Volcanic Disaster Reduction Summit 2008 in Tokachidake SUMMIT NEWS LETTER

2008年12月13日（土）【プログラム】

13:00 開会挨拶

北海道火山防災サミット2008地方実行委員会委員長 和田恵治

地元自治体挨拶 美瑛町長 浜田哲

13:10 第1部 パネルディスカッション「1988-89年噴火対応の葛藤と教訓から学ぶ」

コーディネーター：岡田弘（北海道大学名誉教授）

パネリスト：佐藤 徹（元旭川地方気象台）

水上 博（元美瑛町長）

安田英雄（元上富良野町助役）

15:00 第2部 パネルディスカッション

「十勝岳のふもとと美瑛・上富良野～大正泥流を教訓に～観光・防災まちづくり」

コーディネーター：新谷 融（北海道大学名誉教授）

パネリスト：早坂和廣（元美瑛町助役）

照本清光（美瑛地区住民代表）

前川光男（美瑛町政策調整室長）

橋本三郎（元旭川河川事務所長）

若松宏治（元旭川土現道路建設課長）

16:30 閉会



防災関係機関によるパネル展示

主催：北海道火山防災サミット2008十勝岳地方実行委員会

共催：十勝岳火山防災会議協議会

会場：美瑛町町民センター

（美瑛町寿町2丁目3-13）

第1部 パネルディスカッション

「1988-89年噴火対応の葛藤と教訓から学ぶ」

第1部は、1988-89年噴火当時、住民の生命と財産を守るため最前線で活躍した方々をパネリストにお招きしました。20年前、雪雲と暗闇のため現象の確認に困難をきわめる「見えない噴火」に対応するため、危険域に立ち入らざるを得なかったことや、住民避難命令と避難解除の発令に関わるいきさつなどを振り返りました。



20年が経過した今だからいえる本音も飛び出しました。当時すべての決定権をもつ自治体首長の葛藤とその経験から、平穏時の対策の重要性や自治体が専門家のアドバイス得られる仕組みの必要性などが語られました。

登壇者紹介



(当時) 旭川地方本部
十勝広域振興局長



(当時) 旭川市長



(当時) 上富良野町長



(当時) 北海道大学助教授



Volcanic Disaster Reduction Summit 2008 in Tokachida SUMMIT NEWS LETTER

第2部 パネルディスカッション

「十勝岳の承もと美瑛・上富良野～大正泥流を教訓に～観光・防災まちづくり」

第2部は、火山のふもとでその恵みを享受して暮らす美瑛町における災害教訓とまちづくりがテーマです。

美瑛町の歴史をひもとくと、大正泥流時に自主的に避難行動をした人たちが多く、すでに危険区域に住居が少なかったことなどから、噴火泥流災の11年前に起こった大水害の経験が、地域に災害に備えるまちづくり意識の源になっていた可能性があると、コーディネーターの新谷先生が指摘しました。



白金温泉・美瑛地区の減災・観光まちづくりは、災害に備える予防対策が実施された特別な例です。

当時、「安全まちづくり」に携わった方々からその苦労と熱い思いを伺いました。開拓以来のまちづくりへの思いが世代を超えて継承されていることを確認しました。